

2013年6月14日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、輸出は下げ止まっている。個人消費は、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直しつつある。設備投資は、全体として持ち直してきている。公共投資は増加している。こうした中、生産は緩やかに持ち直している。また、雇用情勢も緩やかに改善している。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、国際商品市況の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、下げ止まっている。

設備投資は、堅調な非製造業に加え、製造業でも前向きな動きが徐々に増加しており、全体として持ち直してきている。

個人消費は、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直しつつある。

4月は、百貨店は、増床効果などから、増加している。スーパーは、弱めの動きが続いている。家電販売は、白物家電などが底堅いものの、テレビなどの低調から、前年を下回っている。乗用車販売は、堅調に推移している。外食売上高、旅行取扱高はともに、持ち直しの動きがみられている。

住宅投資は、緩やかに増加している。

4月の住宅着工は、持家は前年を上回ったものの、分譲、貸家は前年を下回った。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに持ち直している。この間、在庫は横ばい圏内の動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は緩やかに改善している。この間、賃金は弱い動きとなっているものの、雇用者所得は、振れを均してみると、なお横ばい圏内の動きとなっている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、前年の動きの反動などから、マイナスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金を中心に前年比伸び率が高まっている。

貸出残高は、前年を上回っている。これは、住宅ローンの伸び率が幾分拡大する中、企業向け貸出において、資金需要は全体としてみれば引き続き乏しいものの、一部で海外進出関連等の貸出が増加したためである。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上